



「良書ご案内」

書籍名	不動産の未来	著者名	牧野 知弘
出版社名	朝日新書	発行年月	2022年3月

本書は不動産を語る本でありながら、人生をも語っている。変化はほんの少しの綻びから生まれる。やがてその穴は大きくなり気づいたら大きな変化になっている。2020年4月の緊急事態宣言、コロナ禍で在宅勤務が始まる。テレワークという小さな穴が、大きくなって社会全体を変えようとしている。コロナ後はコロナ前に戻らないのだ。在宅勤務は自分の住む家をあらためて「生活する」という視点から見つめ直す機会となった。職住近接という「会社ファースト」の家選びから、「生活ファースト」に家選びの価値観に今変わろうとしている。

牧野は、「そろそろ人生の多くを家の所有のために売り渡すことをやめませんか。」と主張する。多くの人達は、人生の多くを住宅ローンの返済のために捧げ、人生の多くの時間を通勤に奪われている。人生には他に金や時間を使うところは一杯ある。例えば文化や芸術、歴史、旅に。家に使うつもりのお金の一部を自分に投資すれば人生はもっと自由で豊かになるはずだ。自宅と会社の往来がなくなる新時代が到来すれば、住宅ローンによる30年もの投獄生活から解放され、私たちの人生は新たに開けてくるだろう。 「人生を取り戻そう。」

(小さな穴がやがて大きな変化を生む)

- 1946年～1970年(25年間) … 戦後復興期、輸出型産業を主軸とする高度経済成長期
東京タワー(1958年)、東海道新幹線・東京オリンピック(1964年)、大阪万博(1970年)
1960年代の三種の神器(カラーテレビ、クーラー、カー) 三大都市への人口流入
人口は7200万人から1億人へ(44%増)
- 1971年～1995年(25年間) … 日本の黄金期、人口は1.2億人へ
就業形態も工場労働者から事務所ワーカーへ、サラリーマン時代の到来
都会への人口集中は膨大な住宅需要を生む。家は住宅ローンを組んで買うのが当たり前。
2度のオイルショックを乗り越え、平成バブル(1989年)が発生。
- 1996年～2020年(25年間) … バブルの崩壊、急激な高齢化、人口はついに減少期に突入する
阪神淡路大震災・オウム真理教事件(1995年)、北海道拓殖銀行・山一証券の倒産(1997年)
日本の人口減少(2010年)、東日本大震災(2011年)、アベノミクスによる超金融緩和始まる(2013年)
生産年齢人口が8700万人から7400万人へ、25年で1300万人の働き手が減少

(参考) 「家の買い方 街の選び方」 牧野知弘 祥伝社

岩城

編集後記

久しぶりに野球の話題を3つ!まず、夏の甲子園の優勝校は、おねでとうございます!東北勢初の日本一!仙台育英高校。須江監督は就任年の甲子園敗退後、甲子園制覇への1000日計画を公言し1471日で達成。その実行力に感服。永年、白河関跡にある白河神社が毎年東北代表6校に願いを込め通行手形を送り「優勝旗白河の関越」が叶う。次は、プロ野球セリーグの現本塁打王、ヤクルト村上宗隆選手(2000/2/2生れ)、2位の選手の2倍、8/29時点で49本!過去50本以上打ちタイトルを獲得した日本人選手は5人、若干22歳での獲得が達成されれば「世界の王貞治」を抜く。最後はマリナーズ、イチロー選手の球団殿堂入りに際して発した印象的なコメントを。「自分自身に限界を設けず、日々の困難に打ち勝つ欲望と情熱を見つける」この3つの話題の根底には震災が、羽生結弦さんも。魂とアスリートの縁を感じます。

発行所：株式会社ライフデザイン研究所

所在地：〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビール2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤